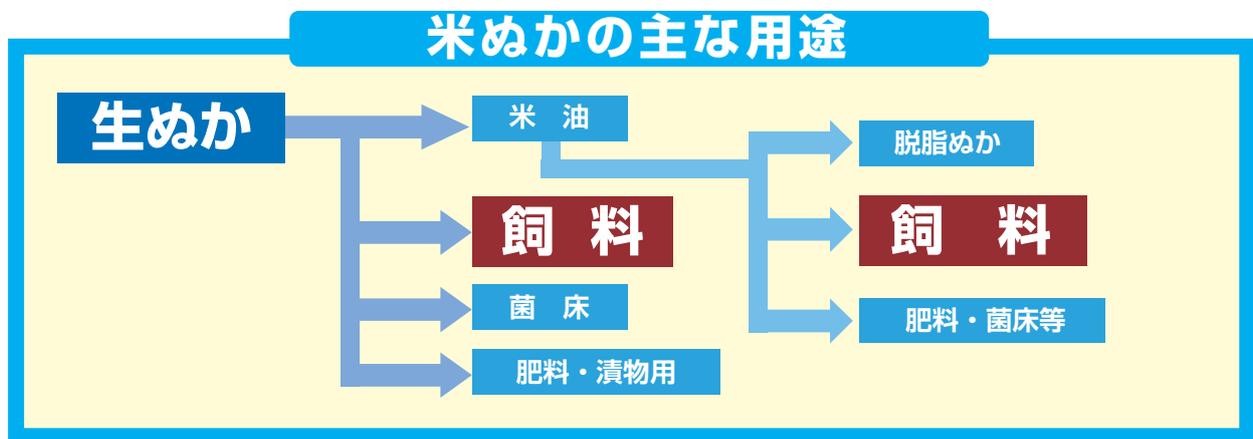


玄米の放射性セシウム濃度をにしましょう!

- 米ぬかの用途である牛用飼料の放射性セシウム濃度は **100ベクレル/kg** 以下、豚用飼料は **80ベクレル/kg** 以下 でなければなりません。



米ぬかの放射性セシウム濃度は玄米よりも高く、玄米中濃度の8倍とされています。

【放射性セシウム濃度】 米ぬか = 玄米 × 8

- ▶ お米の卸売業者は、許容値を超えるぬかが発生した場合、ぬかの販売が困難となり、玄米の販売まで影響が生じます
- ▶ つまり玄米の放射性セシウム濃度を抑制しないと、栃木米販売に大きな影響がでると懸念されます。

**放射性セシウムを
水稻に吸収させない対策が必要です!!**

そのためには、深耕と加里施用（裏面参照）が必須です。

今年の稲作...放射性物質を稲に吸収させないようにしましょう!

食品中の放射性物質をなくし、栃木米の安全・安心を確保するため、**深耕と加里肥料の施用**をしっかりとやりましょう!

深耕しましょう

- セシウムは、深く耕すことで土壌に吸着され、稲の吸収量が減ります。

➡ **15cm以上深く起こしましょう**(通常より深く)



できるだけ深く、15cm以上耕起しましょう

加里を基肥で施用しましょう

- カリウムが不足していると、稲がセシウムを吸収しやすくなります。
- 土壌中のカリウム濃度が適正であれば、玄米中のセシウム濃度は急激に低下します。

➡ 24年産玄米のモニタリング検査で**放射性**

セシウムが50ベクレル未満の地域では、通常の基肥に加えて、**塩化加里(加里60%)を10a当たり17kg**を施用しましょう。

➡ **50ベクレルを越えた地域**では**塩化加里を10a当たり28kg**を施用しましょう。

栃木県全体でカリウムが不足している傾向にあります。放射性物質が検出されなかった地域でも加里を施用しましょう。なお、検出されなかった地域では加里成分を増やした「ひとふりくんKシリーズ」も有効です。

倒さない稲づくりをしましょう

- 倒伏すると、土壌に含まれるセシウムが籾に付着する可能性があります。

土壌中のカリウム濃度と玄米へのセシウム移行係数

